



「学校楽しかった？おうちまで気をつけて帰ってね」



「それから...、図書館分館で読み聞かせに聴き入る子どもたち」

交流・連携の強化

子どもたちが安心できるまちづくり



「よろしく、おっちゃんたちは地域安全推進委員です」

町内の交流と連携を充実させることで安全で安心できるまちづくりを目指しています。特に地域の宝である子どもたちを危険から守るために交流と連携が進んでいます。例えば、通学路の店や事業所、一般家庭など約250軒が「いざ」というときの避難所になっています。それから、たくさんの人たちが自家用車に「校内見回り中」というステッカーを貼っています。このようなことが、町民みんな子どもを守っているという連携意識を高め、防犯効果にもつながっています。

また、町も子どもたちの健全な育成を見守る拠点として青少年センターを設置しました。センターの中には不登校や引きこもりがちな子どもたちのために少し年上の相談相手メンタルフレンドもいます。



「いざ」といときの避難所「きしゅう君の家」

見回りステッカーをつけた車で配達中



思春期体験学習で中学生が乳幼児健診のお手伝い

教育・文化の充実・創造

こころ豊かなひとづくり、まちづくり

町の次代を担う子どもたちのすこやかな育成のために、学校では自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力を幅広く教育に取り組んでいます。町が行う生涯学習やスポーツの各事業でも、子どもたちだけでなく町民すべてが気軽に参加し交流できるように、生涯学習センターや各公民館、図書館、スポーツ施設などを整備するとともに、様々な機会を提供しています。

また、先人が残してくれた熊野古道など貴重な歴史的・文化的遺産を守り、さらに後世へ伝えていくべく努めています。



南部梅林で紀州梅林太鼓を披露する上南中學生たち



「目指すは宇宙飛行士！」、宇宙少年団の子どもたち



中央公民館よさこい教室「ブラリズム」の皆さん